

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

1 (1) $(x-a)^2 = x^2 - 2ax + a^2$

$$\begin{array}{r} x + 2a \\ x^2 - 2ax + a^2 \overline{) x^3} \\ \underline{x^3 - 2a^2x^2 + a^3x} \\ 2a^2x^2 - a^3x \\ \underline{2a^2x^2 - 4a^3x + 2a^4} \\ 3a^3x - 2a^4 \end{array}$$

上の筆算より、求める余りは、
 $3a^3x - 2a^4 \dots$ (答)

(2)
$$\begin{array}{r} x - \alpha \\ x^2 + dx + \beta \overline{) x^3} \\ \underline{x^3 + dx^2 + \beta x} \\ -dx^2 - \beta x \\ \underline{-dx^2 - d^2x - d\beta} \\ (d^2 - \beta)x + d\beta \end{array}$$

上の筆算より、 $f(x)$ で x^3 を割った余りが $3x + \beta$ であるとき、

$$\begin{cases} d^2 - \beta = 3, \dots \textcircled{1} \\ d\beta = \beta \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

が成り立つので、 β の値に応じた $f(x)$ の個数は、 $\textcircled{1}\textcircled{2}$ をともに満たす実数 d, β の組 (d, β) の個数に一致する。

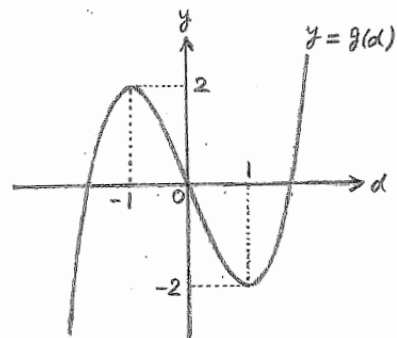
$$\textcircled{1} \text{かつ} \textcircled{2} \Leftrightarrow \begin{cases} \beta = d^2 - 3, \dots \textcircled{3} \\ d(d^2 - 3) = \beta \dots \textcircled{4} \end{cases}$$

であり、1つの実数 d に対して $\textcircled{3}$ より実数 β はただ1つに定まるので、求めるものは、 $\textcircled{4}$ を満たす異なる実数 d の個数である。

$\textcircled{4}$ の左辺を $g(d)$ とおくと、
 $g(d) = d^3 - 3d,$
 $g'(d) = 3d^2 - 3$
 $= 3(d+1)(d-1)$

より、 d の変化による $g(d)$ の増減および $y = g(d)$ のグラフは次のようになる。

d	\dots	-1	\dots	1	\dots
$g'(d)$	$+$	0	$-$	0	$+$
$g(d)$	\nearrow	2	\searrow	-2	\nearrow



曲線 $y = g(d)$ と直線 $y = \beta$ の共有点の個数を考えることにより、求める個数は、

$$\begin{cases} \beta < -2, 2 < \beta \text{ のとき } 1 \text{ 個,} \\ \beta = \pm 2 \text{ のとき } 2 \text{ 個,} \dots \text{(答)} \\ -2 < \beta < 2 \text{ のとき } 3 \text{ 個.} \end{cases}$$

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

2 1回目、2回目の目の数と掛けた値 ab を表にすると次の通り。

$a \backslash b$	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6
2	2	4	6	8	10	12
3	3	6	9	12	15	18
4	4	8	12	16	20	24
5	5	10	15	20	25	30
6	6	12	18	24	30	36

(1) C の値で場合分けをする。

(ア) $C=1$ のとき

すべての (a,b) の組で成立するから 36通り。

(イ) $C=2$ のとき $ab \leq 4$ 。

これを満たす (a,b) の組は

$(a,b) = (1,1), (1,2), (2,1), (2,2), (1,3), (3,1), (1,4), (4,1)$ の 8通り。

(ウ) $C=3$ のとき $ab \leq 3$ 。

これを満たす (a,b) の組は

$(a,b) = (1,1), (1,2), (2,1), (1,3), (3,1)$ の 5通り。

(エ) $C=4$ のとき $ab \leq \frac{4}{3} = 2 + \frac{2}{3}$ 。

これを満たす (a,b) の組は

$(a,b) = (1,1), (1,2), (2,1)$ の 3通り。

(オ) $C=5$ のとき $ab \leq \frac{5}{2} = 2 + \frac{1}{2}$ 。

これを満たす (a,b) の組は

$(a,b) = (1,1), (1,2), (2,1)$ の 3通り。

(カ) $C=6$ のとき $ab \leq \frac{6}{1} = 2 + \frac{4}{1}$ 。

これを満たす (a,b) の組は

$(a,b) = (1,1), (1,2), (2,1)$ の 3通り。

(ア)~(カ)より、求める確率は

$$\frac{36+8+5+3+3+3}{6^3} = \frac{27}{108} \dots (答)$$

(2) $ab+2C$ と $2abC$ が互いに素のとき ab は奇数である。

(ア) $(a,b) = (1,1)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 3, 4, 5, 6$ の 6通り。

(イ) $(a,b) = (1,3), (3,1)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 4, 5$ の 4通り。

(ウ) $(a,b) = (3,3)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 4, 5$ の 4通り。

(エ) $(a,b) = (1,5), (5,1)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 3, 4, 6$ の 5通り。

(オ) $(a,b) = (3,5), (5,3)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 4$ の 3通り。

(カ) $(a,b) = (5,5)$ のとき条件を満たす C の値は

$C = 1, 2, 3, 4, 6$ の 5通り。

(ア)~(カ)より、求める確率は

$$\frac{6+4 \times 2 + 4 + 5 \times 2 + 3 \times 2 + 5}{6^3} = \frac{13}{72} \dots (答)$$

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

3

$$0 \leq \arg\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) \leq \pi, \dots \textcircled{1}$$

$$4\alpha^2 - 2\alpha\beta + \beta^2 = 0, \dots \textcircled{2}$$

$$2\beta^2 - (3\alpha + \beta + 2)\beta + (\alpha + 1)(\alpha + \beta) = 0, \dots \textcircled{3}$$

(1) ②の両辺を $\alpha^2 (\neq 0)$ で割ると,

$$\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^2 - 2\frac{\beta}{\alpha} + 4 = 0.$$

①より $\frac{\beta}{\alpha}$ の虚部は0以上であるから,

$$\frac{\beta}{\alpha} = 1 + \sqrt{3}i. \dots (\text{答})$$

$|\frac{\beta}{\alpha}| = 2$ より $|\beta| = 2|\alpha|$ であるから, α, β が

正六角形 $ABCDE$ の頂点のとき,

(ア) $A(\alpha), C(\beta)$, または,

(イ) $E(\alpha), C(\beta)$ のいずれか

であるが, このうち①を満たすのは(ア)に限る.

よって, α は頂点 A , β は頂点 C . $\dots (\text{答})$

(2) ③より,

$$\{\beta - (\alpha + 1)\}\{2\beta - (\alpha + \beta)\} = 0.$$

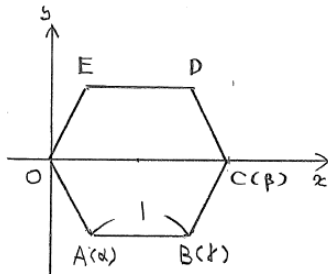
$$\beta = \alpha + 1, \frac{\alpha + \beta}{2}.$$

$\beta = \frac{\alpha + \beta}{2}$ のとき, β は線分 AC の中点であり,

正六角形の頂点にならなりので不適.

$\beta = \alpha + 1$ のとき, β は α を実軸方向に1だけ平行移動した点である。 β が頂点 B, D, E の場合を考える.

(i) β が頂点 B のとき,

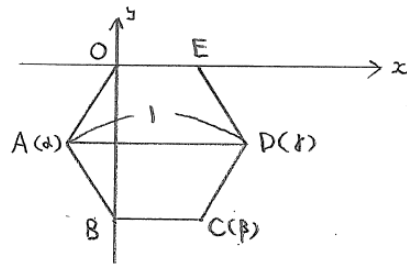


$\dots (\text{答})$

このとき,

$$(\alpha, \beta, \gamma) = \left(\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, 2, \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i\right). \dots (\text{答})$$

(ii) β が頂点 D のとき.

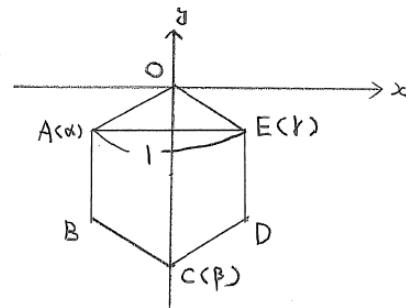


$\dots (\text{答})$

このとき,

$$(\alpha, \beta, \gamma) = \left(-\frac{1}{4} - \frac{\sqrt{3}}{4}i, \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \frac{3}{4} - \frac{\sqrt{3}}{4}i\right). \dots (\text{答})$$

(iii) β が頂点 E のとき.



$\dots (\text{答})$

このとき,

$$(\alpha, \beta, \gamma) = \left(-\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{6}i, -\frac{2\sqrt{3}}{3}i, \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{6}i\right). \dots (\text{答})$$

理学部、医学部、工学部、農学部、情報学部 (自然情報学科、コンピュータ科学科)

4

(1) $f(x)$ は $x \geq 0$ で連続な増加関数より, $0 \leq x \leq 2 - \frac{1}{n}$ において,

$$\frac{f(x)}{2-x} \geq \frac{f(0)}{2-x} = \frac{1}{2-x} \text{ であるから,}$$

$$\begin{aligned} \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx &\geq \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{1}{2-x} dx \\ &= [-\log(2-x)]_0^{2-\frac{1}{n}} \\ &= -\log \frac{1}{n} + \log 2 \\ &= \log 2n. \end{aligned}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \log 2n = \infty$ であるから,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx = \infty. \text{ (証明終り)}$$

(2) $f(x)$ は $x \geq 0$ で連続な増加関数より, $y \geq 2 + \frac{1}{n}$ のとき, $2 + \frac{1}{n} \leq x \leq y$

において $\frac{f(x)}{x-2} > \frac{f(0)}{x-2} = \frac{1}{x-2}$ であるから,

$$\begin{aligned} F_n(y) &\geq \int_{2+\frac{1}{n}}^y \frac{1}{x-2} dx \\ &= [\log(x-2)]_{2+\frac{1}{n}}^y \\ &= \log(y-2) - \log \frac{1}{n} \\ &\rightarrow \infty. \text{ (} y \rightarrow \infty \text{)} \end{aligned}$$

よって, $\lim_{y \rightarrow \infty} F_n(y) = \infty$. (証明終り)

$$\text{また } g(y) = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx + \int_{2+\frac{1}{n}}^y \frac{f(x)}{2-x} dx$$

$$\text{とおくと, } g(y) = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx - F_n(y)$$

であり, $y \geq 2 + \frac{1}{n}$ のとき, $f(y) > 0$ より,

$$g'(y) = -F_n'(y) = -\frac{f(y)}{y-2} < 0.$$

よって, $y \geq 2 + \frac{1}{n}$ で $g(y)$ は減少関数である.

これと $\lim_{y \rightarrow \infty} g(y) = -\infty$ および

$$g(2+\frac{1}{n}) = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx \geq \log 2n > 0$$

と $g(y)$ が " $y \geq 2 + \frac{1}{n}$ で" 連続であることより, $y > 2 + \frac{1}{n}$ において, $g(y) = 0$ を満たす実数 y がただ1つ存在する. ゆえに題意は示された. (証明終り)

$$(3) \quad g(4) = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x)}{2-x} dx + \int_{2+\frac{1}{n}}^4 \frac{f(x)}{2-x} dx.$$

$$I = \int_{2+\frac{1}{n}}^4 \frac{f(x)}{2-x} dx \text{ において, } x = 4-t \text{ とおく.}$$

$$\frac{dx}{dt} = -1 \quad \begin{array}{l} x | 2+\frac{1}{n} \rightarrow 4 \\ t | 2-\frac{1}{n} \rightarrow 0 \end{array}$$

このとき,

$$\begin{aligned} I &= \int_{2-\frac{1}{n}}^0 \frac{f(4-t)}{t-2} \cdot (-1) dt \\ &= \int_0^{2-\frac{1}{n}} \left\{ -\frac{f(4-t)}{2-t} \right\} dt = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \left\{ -\frac{f(4-x)}{2-x} \right\} dx. \end{aligned}$$

したがって,

$$g(4) = \int_0^{2-\frac{1}{n}} \frac{f(x) - f(4-x)}{2-x} dx.$$

$f(x)$ は $x \geq 0$ で増加関数であり,

$0 \leq x \leq 2 - \frac{1}{n}$ のとき $x < 4-x$

であるから, $f(x) < f(4-x)$,

よって, $g(4) < 0$ となるから,

(2) より, $g(y) = 0$ を満たす実数 y は $y < 4$ を満たす. したがって, (2) の a_n について, $a_n < 4$ となる. (証明終り)